MP1 (練習用)

赤い人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＭＰ１（練習用）

【Ｎコード】
Ｎ４２３３Ｚ

【作者名】
赤い人

【あらすじ】
前世で何もなさずに死んだＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩが異世界に転生！王子で可愛い妹がいる。これで異世界チートがあれば勝ち組だ！あっはっはっはと思ったが・・・。何だかんだで異世界チートは得ます、多分ハーレム系で最強になってくれるはずです。文章力がゼロでさらに見切り発車な作者です。色々練習のつもりで書いていますのでご指摘いただけるとありがたいです。

プロローグ（前書き）

この作品は作者の練習用に書いています。自他共に認める文章力ゼロでこのままでは不味いと思って投稿しました。色々ご指摘いただけるとありがたいです。非才ではありますが改訂しながら完結を目指します。

※この小説はＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩを推奨も誹謗もしていません。

プロローグ

ＭＰ１　プロローグ

あっ死んだ

我ながら何ともあっけない人生だった。大学院までは順風満帆だったと思う。ストレートで有名国立大学に入り、剣道に打ち込んで４段を取った。友人との付き合いで無茶な事もした、彼女は作らず（↑ここ重要！）趣味のアニメや漫画、ライトノベルを愛した。それが崩れたのは大学院に入ってからだった。何をするのも無気力になり今では世界共通語ＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩに・・・

今日も一人孤独にアニメを見ていたところ急に息が詰まった、このころには人とのかかわりを絶って１カ月たっていた、助けてくれるひとはいない、つまりこれから死ぬということが理解できた。やっぱりあっけない人生だった。

この人生はあっけなかったけど願わくば次の人生では何か成し遂げたいな・・・。

一享年２４歳　某国立大院生　自宅で孤独死　死後２ヵ月と推測死因は心筋梗塞一

あれ！？

うんやっぱりこれは転生だよな～
比較的大柄だったはずの身体を眺めたが鏡に映るのはどう見ても４，５歳の子供です。というか金髪碧眼になってるし、顔は・・・まあなかなかなような気がする。まあまわりにいる比較対象が美男美女なため相対的に平凡に思えるが。

状況を把握しよう

自分の名前は
ショウ・オオサカ
西洋風なのに名前が突っ込みどころ満載なのはほっといてくれ。
初めのショウが名前でオオサカは出身地を示すそうだ。
生まれた時の記憶はあいまいでよく記憶にない夢をみては体調を崩していた。
その夢は次第に鮮明になっていき今日完全に前世の記憶とそれが前世であることを理解した。
人格は今世のわりといたずら好きな性格を一気に老けさせた状態だ。
ぶっちゃけいうと完全融合状態で乗っ取ったという感じはない。

皆さん（↑誰に言っているんだろう？）も経験はないだろうか。
某願い事をかなえる玉を探す漫画を見て、おとなしい性格だったのに、
「オラ、わくわくするぜ！」
とかいって勇気あふれる性格になった気がしたり、
とある不幸な？フラグ量産機なラノベを見て、
「殲滅原子（デス・アトム）！！！！」
とか将来発動するであろう能力を妄想し、それを続けて完全に厨二病に発症してしまった僕がいる。
・・・ん？ただの暴露話になっていないか。

―閑話休題―

まとめると前の自分とえらい性格が変わって別人格みたいになっても根本的に自分は自分ですよということだ。

まあ性格がいきなり変わったから可哀想なやつみたいな目で見られるかもしれないが、甘んじて受け・・・いやまて！二つ下の異母妹に「お兄ちゃんへん！」とか言われたらこの人生またあきらめるかもしれん！

バレないよう子どもの振りをしよう！・・・ってさっきまでの性格ってどんなだっけ

落ち着いて思・・いｄ？

「「「お兄ちゃん（ショウ様）！五歳の誕生日おめでとう（ございます）！」」」

えっと

順番に可愛い異母妹のカレン、僕専属メイドのトモエ、カレン専属のサラだ。

さっき説明してなかったが実はこれでも王子だ。父さんはニホン国の王で４５０年も統治を続けている生きた伝説で、母さんは僕を生んですぐになくなったそうだがメイド道を極めた特別なメイドだったらしい。ついでに兄弟は１８人いて、自分が１７番目、カレンが１８番目の末っ子だ。他の兄弟は５０歳以上離れているのであまり交流はないが逆にカレンとは年が近いためよくいっしょに遊んでいる。カレンのお母さんは侯爵家の娘らしくプライドが高いのか僕といっしょにいるといい顔をしないけど（今の頭でよく考えると）。

まあまて言いたいことはわかっている。さっきの名前からやっぱりこれはテンプレとか推測できた人、拍手です。転生は転生でも異世

界転生です。なんか日本語で通じるし、文字とかも日本語（習ったことなくて読んでたけど誰も突っ込まなかったのだろうか）、国名もあからさまだ、だがしかし異世界だ。
周りにいる人みんな若いし、父さんも２５歳くらいにしか見えない（実年齢４６５歳）。周りには猫耳、や犬耳の人もいるし、魔法があるらしい！うんファンタジー！あーやっぱり魔法があるなら使えるようになりたいな～よしテンプレ通り早期修行＆異世界チートを確認しないと、まずは・・・

「お兄ちゃん大丈夫？なんかブツブツいっているし、いつもと違う感じだしへんだよ！」

あああああ～やってしまった。いつもどうりに振る舞おうと誓ってたはずなのに、もう生きていけない・・・ドナドナドーナもうどっかつれてってー

「カレン様。ショウ様はおそらく最近は見ていらっしゃらなかった悪夢を見てしまわれたのでしょう。すぐにお薬と治癒魔道士を連れてまいりますので大丈夫ですよ。」
「そうです。ああカレン様が今夜いっしょに寝てあげてはどうでしょう。ショウ様もきっとぐっすりお休みになられますよ！」
「えっほんと！えい！」
トモエがフォローしサラがとんでもない事をおっしゃって、いきなりカレンが抱きついてきた。
「☆□●△！？」
ふんわりと柔らかい感触と甘い香りがしてきて・・・
やばいまた変な奴と言われちゃうからしっかりしないと
「あ、ありがとうカレン、もう大丈夫。夢見が悪かっただけでちょっと落ち込んでただけだから、それとサラがいったのは今夜でいまじゃないよ」

「わかった」
といってカレンはあっさり離れた。
し、しまった～余計なこと言っちゃった。もう少し天国を味わいたかったのに。（涙）

いちようお薬飲んで、治癒魔道士に治療してもらいました。なんともないようです。

プロローグ（後書き）

初めて小説を書きました。いつも国語は赤点近くだったな～上達できるように頑張ります。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の１－（前書き）

続けて投稿です。

第1章　－MP1の王子　其の1－

第一章　－M1の王子　其の1－

「お兄ちゃん。プレゼント！」
そういって僕に渡してくれたのは泥団子だった。誕生日に泥団子・・・もちろん無粋な事は言わない、異母妹の泥団子に込められた自分へのお思いが素晴らしい。

「ありがとうカレン。この泥団子すっごくおいしそうだね！」
よし、対応完ぺき！はっは前世では歳の離れた弟がいたから子供の相手は慣れてるぜ！

「え！？お兄ちゃんそれ食べるの？やっぱりあたまへん！」
またやっちまった！なんでだー

－説得中－

何とか薬&治癒魔道士のコンボをかわし、冗談ということで納得してもらった。そしてひと段落ついたところでトモエが話し出した。
「ショウ様5歳の誕生日おめでとうございます。5歳の誕生日には特別な儀式があります。陛下が待っておられますのでお食事の前に玉座の間にいってらっしゃいませ。」

！？　今世の記憶を探ってもまだ父上は遠目にしか見たことがなかった、よっぽど重要な儀式らしい、ちょっとオラ、わくわくしてき

たぜー

ー玉座の間にてー

一人で行けということでカレンには置いていくことに文句を言われたが了解してもらった。プンプンしているところもまた可愛い・・・意を決して玉座の間に入った。

「大きくなったなショウよ！」

そこには威圧感たっぷり、カリスマオーラ万歳の御人がいた。ってか父らしい。

個人的にこういうなんかすっごそうな人って身内にはいて欲しくないよね。そりゃ自分もすごかったらいいけど、我が道を行くとかで迷惑振り撒いたり、比較されて蔑まれたり。どーせ自分はＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩですよ～

「ん？どうした、我が子ならそんな小さな声でなくはっきりと答えよ！」

またまたやってしまったようだ。やっぱりＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩのネガティブさに性格が引きずられているみたい、ポジティブにしないと！うん、もう自分は別人！人生バラ色、王子だし可愛妹居るし勝ち組だ！

「はっ！ショウ・オオサカ、召喚に応じ参上致しました！汝が我が父か！」

畏まった言い方あんまり知らないんだ、たしかこんな感じの挨拶で

よかったよね。

「いかにも！我がそなたの父である！」

乗ってくれた。意外とお茶目な性格かもしれない。

落ち着いてまわりを見ると宰相なおっさん（名前忘れたわ）と、偉そうな神官ぽい人がいた。

「今日はそなたにある事実と儀式をしてもらう。説明は我よりギラ、そなたの方がよいだろう。任せた！」

するとえらそうな神官ぽい人ギラだっけが話し始めた。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の１－（後書き）

あつふたつ連続投稿します。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の２－（前書き）

３つ目です。

第1章　－MP1の王子　其の2－

－MP1の王子其の2－

ギラの話はあーだこうだでわかりにくかった。まとめるとこうだ。

・この世界には神がいる。
・この世界のすべてのものはMPでできている。
・神はMPを使って何でもできる。（天地創造からハゲ治療まで）
・人族もその恩恵を受け、神にMPを奉納することで力を借りてます。
・今日は神に自分は神の使徒であることを宣言して実際に力を借りましょう。
・それと身分証明書を神に発行してもらいましょう。（↑これ儀式）

うんRPGをこよなく愛し、現実と2次元の区別がつかなくなった自分だこれくらい楽勝だろう。

なになに神の存在を意識し語りかけなさい？

『えーもしもし神様！おれおれ！ちょっとなんか力欲しいんだけど』

ぴかーん！成功か？こんな適当でいいのか！

神1？『ショウ・オオサカよ汝に加護を授けよう』
神2？『ショウ・オオサカは12歳まで限定職業「初心者」を得ました。

初回限定につきMP奉納はありません
ポテンシャルスキル「加護（熟練度1）消費日MP－1を

習得
アクティブスキル「加護（ＭＰ操作　０／０）消費ＭＰ０」
習得
ポテンシャルスキル「メニュー欄（熟練度１）消費日ＭＰ０習得
アクティブスキル「メニュー欄（ステータス閲覧　０／０）消費ＭＰ０習得
ポテンシャルスキル「初心者行動の心得（熟練度１）消費日ＭＰ０習得

なんかゲットした。

「習得されたようですね。神は常に見ておられます。神の存在を感じＭＰをささげましょう。陛下お願いします。」

このひと完全宗教家だよね。おっと父さんが寄ってきた

「これはお前の誕生日プレゼントだ。名を「１億までＭＰ保存可、すでに２０万入っているめちゃレアな指輪」という。今からショウに所有権を渡す。同意してこの指輪にキスをしなさい」

な、名前が大変な事に、
言われたように父さんがキスした指輪にキスした・・・うげ

神２？『オウマ・オオサカ・ニホンからショウ・オオサカに「１億までＭＰ保存可、すでに２０万入っているめちゃレアな指輪」が譲渡されます。よろしいですか？』

あーあれだＹＥＳとか念じればいいんだよな

神２？『オウマ・オオサカ・ニホンからショウ・オオサカに「１億までＭＰ保存可、すでに２０万入っているめちゃレアな指輪」が譲渡されました』

ゲットだぜ～

「無事成功されたようですね。それでは次に身分証明書の発行を行います。ショウ様いきますよ？」

神１？『ギラ・ペキン神官より願いを聞いた　ＭＰ１０をささげよ　さすれば　身分証明書を発行しよう』

神２？『クエスト発生

タイトル：身分証明書を発行しよう

達成条件：ＭＰ１０を奉納

期限：なし

報酬：身分証明書の発行

クリア条件ＭＰ１０をささげますか？』

もちＹＥＳ

神２？『体内ＭＰ１、外所有ＭＰ２０００００ あります。どのように奉納しますか？』

体内ＭＰ？よくわからん。外所有とかはさっきの指輪からかな？ＭＰ０とかこわいし、指輪からにしよう

神２？『外所有ＭＰから１０奉納しました

クエスト達成です

身分証明書が発行されました』

ん?手になんかカードみたいのが出てる、内容は

名前：ショウ・オオサカ
種族：ヒューマン
年齢：５歳
職業：初心者
体内最大ＭＰ：１

どーなんでしょう？　え！？　なんかめっちゃ驚いているけど・・・
やっぱ異世界チートか、悪いね～魔王倒せとか言われたらｄ

「の、呪われた子だ！即刻殺しましょう！」

へ？

第1章　－ＭＰ１の王子　其の２－（後書き）

次で今日は最後

第1章　－ＭＰ１の王子　其の３－（前書き）

今日最後です

第1章　－ＭＰ１の王子　其の３－

ＭＰ１　－ＭＰ１の王子　其の３－

「「殺せ!!　殺せ!!　殺せ!!」」

神官と宰相の大合唱。どうしてこうなった。

整理しよう

・５歳の誕生日、転生者と発覚!?妹可愛い
・神様とのファーストコンタクト!成功のはず
・父さんからのプレゼント!名前が酷い
・クエスト達成!身分証明書ゲット
・身分証明書を見せた!今の状況

異世界チートという以前にもうエンドしそうな雰囲気です。とりあえず重要なのは妹可愛いというのは大前提として、身分証明書の内容。おかしなところはおそらく体内最大ＭＰ１ということだろう。この世界のものはすべてＭＰからできているということなのでＭＰ１は低すぎたのだろう、魔法のないとこから来た弊害・・・逆チートものか。整理して原因は分かったけど、どうしたらいいのやら。

「おさまれ!お主らは誰の前で誰の息子を殺すというのか!?体内最大ＭＰ１というのは前代未聞だ。たしかに王宮にはおいてはおけんしが、１２歳までは育て見守るのが親の務め、１２歳になったら××××すればよかろう。」

さすが父さん今日初めて話したけど何とかしてくれそう。頼りになるね!　途中なんか聞こえなかったけど助かるんならいいよね。

―その後―

「これからこの離れがショウ様の居住区となります。ショウ様は１２歳までここを出ることはできません。なおここには朝昼晩食事を持っていきます。掃除は１週間に一回、洗濯物やその他必需品の取り換えもします。その際所定の位置にいて誰とも合わないようにして下さい。というかもう１２歳まで誰ともしゃべれません。１２歳になったら門をあけますので、そのまま消えて２度と近寄らないでください。」

トモエが汚い物でも見たような眼で嫌そうにおっしゃった。王子になってもＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩなのか・・・

第1章　－ＭＰ１の王子　其の３－（後書き）

感想お待ちしております。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の４－（前書き）

昨日ぶりです

第1章　－MP1の王子　其の4－

第1章－MP1の王子其の4－

またなのか、やっぱり僕はHIKIKOMORIになる運命なのか！？まさか記憶を取り戻して1日も絶たずに今世でもHIKIKOMORIに逆戻りするとは思わなかった。

いや待てよ。前世では自分の意志で家から出なかったから絶賛HIKIKOMORI中と言われていたが、今の状態はどうだろう。

整理すると

・魔法があるし、ファンタジーなので出てもいいかもしれない。いや一度は出るべきだ

・無理やり自分の意志とは関係なく閉じ込められた。これは監禁では？いやそうだろう

ということはこれはHIKIKOMORIではない！合法的にあと7年外に出なくてもいいということだ！なんてこった、意図せず脱HIKIKOMORIしちまったぜ！はっはっは～

－閑話休題－

今後のことを考えよう。

呪われた子宣言されたし、トモエの反応を見てもこの城には味方はいない。・・・いやカレンだけは味方だろう、いや信じたい。父さ

んは中立で命だけは保証してくれる。

?:今すぐ逃げた場合

これは悪手だ。何故なら自分は5歳でこの異世界のことは何も知らないし、逃げる場合味方のあてがなければ希望はほとんどない。というか門を堅く閉じられてて今は逃げれません。

?:言われたように12歳まで待って出ていく

まあ安全そうに見える。だが父以外の反応を見るといつ暗殺されるかわかったものじゃない。いや逆に近寄らないのか、食事に毒を盛られたら・・・そんな状況で耐えきれるのか。

?:情報収集後逃げる

この閉鎖空間で情報が得られるのか、そういえば神からもらったスキルとか確認していなかったな。熟練度とかあったしRPG的に鍛えたら強くなるだろう。・・・そういえば職業「初心者」や父の発言から12歳までかなり弱いんじゃないだろうか。5歳の誕生日でイベントが起きたことを考えると次は12歳でまたイベント後強くなれるということとかもしれない。その場合ここから逃げるのはやっぱり悪手だ。ここにいれば命を狙われる可能性があるが保護してもらえる。外に出ると無力で保護はない金もない、弱い「初心者」はPKされるかもしれない。

以上から現実案として

・父の言う通り、基本的に12歳までここにいて正面から出る

・暗殺にはいちよう気をつけるが7年も気を張るのは不可能だから、そん時はそん時であきらめる

・もちろん情報収集とスキル強化、その他実験をしてみる
・もし途中で外でもやっていけそうになったら再考する。

これで行こう！

第1章　－ＭＰ１の王子　其の４－（後書き）

感想お待ちしています。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の５－（前書き）

スキル確認です。

第1章　－MP1の王子　其の5－

第一章　－M1の王子　其の5－

とりあえず設備、装備の確認をしよう。

おそらく身分の高い人を監禁するために作られたのであろう。
まわりは3メートル以上の塀でおおわれ、正面に堅そうな門がある。
屋敷は一般的な2階建て一軒屋くらいの大きさで庭の広さは団地の公園くらい、今度測定してみようか。
中は結構綺麗で上流階級の下の方クラスという感じ。
生活必需品は一通りそろっているが刃物はなく（髪どうやって切ろう）、絵などの美術品（興味全くないんだが）、チェスとかトランプとかっぽいゲーム類（一人でどないすんねん）、バイオリン、ピアノ等の楽器類（習ったことないし・・・）や格式ばった本（唯一使えそう）がいっぱいある。
だがしかし、テレビやパソコンはない。
生活出来るかもしれないけどこれは厳しい、アニメなしで精神が持つかどうか怪しい。
装備品はちょっと上品だけど防御力0っぽい服とこの指輪か、武器もないし、なんか凄そうなアイテムもなさそう。
指輪だけでもラッキーと思おうかな。

さて設備、装備を確認したからスキルを試してみよう。
たしかステータスを見るスキルがあったはず

アクティブスキル「メニュー欄（ステータス閲覧　0／0）」

ん？なんだ何かイメージが浮かんでいる

ステータス
名前：ショウ・オオサカ
種族：ヒューマン
年齢：５歳
職業１：初心者、職業２：なし、職業３：なし
体内最大ＭＰ：１
Ｌｖ：０
スキル：
　ポテンシャルスキル「加護（熟練度１）消費日ＭＰ－１
　アクティブスキル「加護（ＭＰ操作　０／０）」消費ＭＰ０
　ポテンシャルスキル「メニュー欄（熟練度２）消費日ＭＰ０
　アクティブスキル「メニュー欄（ステータス閲覧　０／０）
消費ＭＰ０
　ポテンシャルスキル「初心者行動の心得（熟練度１）消費
日ＭＰ０

なんか結構詳しく出てきた。
よくみるともう熟練度が１つ上がっている。
これは上げるのは楽勝っぽいな。
もう一つのアクティブスキルを試してみよう。
アクティブスキル「加護（ＭＰ操作　０／０）」だったな。

・・・。

何も起こらない。
何故だ!?
ＭＰ操作ということだからＭＰを動かすのだろう。
奉納するスキルなのかな?それだと意味ないような気がするがやってみよう。

『おいこら神さん、ＭＰ奉納してやんよ』

神２?『体内ＭＰまたは外所有ＭＰ、いくら奉納しますか』

アナウンスが聞こえた。
勝手に神２?とかしているけどなんか機械的だよな。
っと外所有ＭＰを１でいいか。

神２?『外保有ＭＰ１受け取りました』

・・・。

終わりかよ!
熟練度変わっているか確認ステータス開くっと

ステータス
名前：ショウ・オオサカ
種族：ヒューマン
年齢：５歳
職業１：初心者、職業２：なし、職業３：なし

体内最大ＭＰ：１
Ｌｖ：０
スキル：
　ポテンシャルスキル「加護（熟練度１）消費日ＭＰ－１を習得
　アクティブスキル「加護（ＭＰ操作　０／０）」消費ＭＰ０習得
　ポテンシャルスキル「メニュー欄（熟練度３）消費日ＭＰ０習得
　アクティブスキル「メニュー欄（ステータス閲覧　０／０）消費ＭＰ０習得
　ポテンシャルスキル「初心者行動の心得（熟練度１）消費日ＭＰ０習得

メニュー欄の熟練度しか変わってねー！
てか奉納したＭＰ１無駄だったんじゃないだろうか。
ＭＰ１でもさ、ＭＰ１でも生きているんだよ～

第1章　－ＭＰ１の王子　其の５－（後書き）

感想お待ちしています。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の６－（前書き）

今日2本目です。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の６－

第１章－ＭＰ１の王子其の６－

あのあと１０回ほど同じことを繰り返した。
上がりにくいだけかもしれないからね。
結果がこれだ。

ステータス
名前：ショウ・オオサカ
種族：ヒューマン
年齢：５歳
職業１：初心者、職業２：なし、職業３：なし
体内最大ＭＰ：１
Ｌｖ：０
スキル：
　ポテンシャルスキル「加護（熟練度１）消費日ＭＰ－１を習得
　アクティブスキル「加護（ＭＰ操作　０／０）」消費ＭＰ０習得
　ポテンシャルスキル「メニュー欄（熟練度１３）消費日ＭＰ０習得
　アクティブスキル「メニュー欄（ステータス閲覧　０／０）消費ＭＰ０習得
　ポテンシャルスキル「初心者行動の心得（熟練度１）消費日ＭＰ０習得

はい、メニュー欄の熟練度だけ１３まで伸びました。
なんか無駄した気分。
これは別のアプローチを考えた方がよさそうだ。

ＭＰ操作で連想しよう
操作――動かす
何を――ＭＰを
どんなＭＰを？――どんなでも動かせるのか？すべてのものはＭＰからできているんだよな。
もし操作できるならこの今食べているリンゴのＭＰから自分のＭＰにすることもできるか？

イメージはマホトラ！

・・・シーン。

はいなにも起こりません。
いや俺の集中力が足りないのか？
まあ他人のＭＰを動かすのは難しいということｋ・・・そうか！
自分のＭＰなら動かせるんじゃないだろうか？
自分は２種類、外所有ＭＰと体内ＭＰをもっている。
このＭＰを移動させるスキル。

体内ＭＰはパソコンのハードディスクのデータ、外所有ＭＰは外付けハードディスクのデータでこれをつなぐコネクタと移動コマンドがＭＰ操作なのではないだろうか。
とるすと体内最大ＭＰや外所有最大ＭＰがハードディスクの容量に相当か。

ここまでいっていて間違ったらすごいはずかしいんだが、試してみる価値はありそうだそうだ。

だがここで問題がある。
体内ＭＰが１／１で外所有ＭＰから体内への移動はできないし、体内ＭＰから外所有ＭＰに移動するとＭＰは０になる。
ＭＰからできているということが事実なら移動させた瞬間に消滅することになる。
どうするか・・・

－検討中－

結局試してみることにしました！
やっぱりなんかほっといても今の状況だと死にそうだし、やってみよう！
体内ＭＰ１を外所有ＭＰに移動っと

アクティブスキル「加護（ＭＰ操作　０／０）」

・・・なんともない。
いやどことなく精神的に虚無感があるような、懐かしい感覚。
これはそう、ＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩ時代に感じた世界に取り残され、何も行動したくない状態だ。
どーせ僕はＨＩＫＩＫＯＭＯＲＩ～ベットの上でアニメでも見てよ・・・ア、アニメが今の状態では見れないだと！！

あーもう今日は何もしたくない～お休みなさい。

第1章　－ＭＰ１の王子　其の６－（後書き）

感想お待ちしています。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4233z/

MP1 (練習用)

2011年12月16日23時50分発行